

アサリ増産のための碎石覆砂の適地選定

かつてアサリが獲れていた漁場に碎石を敷き詰めると、アサリの生残率が大きく改善し、漁獲対象サイズまで成長することがわかってきました。しかし、どこでも十分な効果があるわけではないため、本研究では、かつてアサリの主産地であった松阪地区において、碎石覆砂の適地選定をおこないました。

なぜ生残率が改善するのか？

松阪地区の海底は砂や泥で、その粒径は1mm未満と小さいため、台風等による強波浪が漁場に侵入すると海底がかく乱され、そこに生息しているアサリも一緒に巻き上げられ、漁場から流出してしまいます。一方、碎石(図1)は粒径が約3mmと大きく重いため、強波浪にさらされても安定しており、アサリは流出しにくくなります。



図1. 覆砂に使用する碎石

適地選定

本研究では、強波浪の影響に加えて、アサリの大量へい死を引き起こす貧酸素水塊や、碎石の機能低下を引き起こす漂砂の堆積についても広域で予測し、これらの影響が小さい場所を抽出しました(図2)。

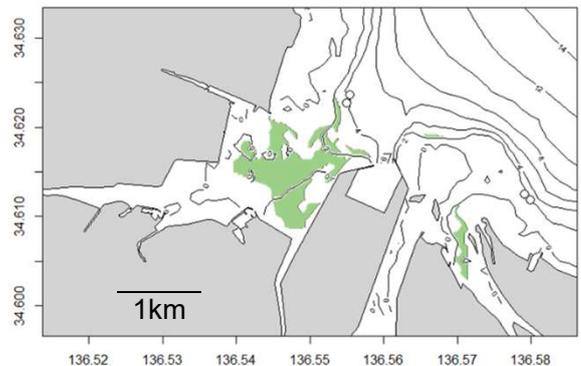


図2. 松阪地区における碎石覆砂の適地
(実線は等深線、■が適地を表す)

今後の展開

大規模な碎石覆砂によるアサリの増産が期待されます。

本研究は令和2年度水産庁水産基盤整備調査委託事業「アサリ漁業復活のための大規模整備技術・維持管理手法の開発」の成果です。



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Suzuka Branch

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812

(2021年3月発行)